

『ほぼ年刊!』のぐち英一郎ニュースは、いかがでしたでしょうか?もし、野口の活動や、気になる鹿児島市の出来事がございましたら、ぜひ、『よろず相談』をご利用ください。

よろず相談...市民の方、個別の相談。いつでもお受けしております。鹿児島市の東西南北、どこにでも伺います。また、プライベートは必ず守ります。安心してご相談ください。

★今までご相談をいただいて解決できた事例

■生活保護の申請

■家庭、地域、職場での人間関係

(パワハラ、セクハラ、DV被害など)

■地域でのお困りごと(ゴミ、野良猫、歩行者の安全、公園安全整備など)

■在住外国人の生活相談など

昨今では、よろず相談への公益通報(内部告発)をいただいたことから、鹿児島市のコネ人事の実態が日の目を見ることになりました。今後とも、みなさまと暮らしやすい鹿児島市を作り、そのために政治をわかりやすくお伝えできればと思います。

是非お気軽にご連絡ください!



延べ600件!お気軽にご相談

活動の場を広げる「のぐち英一郎」の今

「NPO法人 かごしまホームレス生活者支えあう会」

野口も理事を担うNPO。日々の活動として、炊き出し、夜回りの運営などがあります。※さまざまな形でのお手伝い歓迎です。特に木曜日のおにぎりを握ってくださるボランティアさんを随時募集!お米は準備しますので、ぜひご協力下さい。



「ビッグイシュー」かごしまサポーターズ

鹿児島市内のホームレスは現在70人程度と言われていますが、ここ最近では20代の青年がホームレスとなり、炊き出しにいらつしやるなど、状況は悪化傾向にあります。かごしまサポーターズは、ホームレスの方に雑誌販売の仕事を提供する団体、『ビッグイシュー』の具体的なサポートをする団体です。

「ママトコ」かごしま

ママと子どもたちを放射能から守りたい!2011年3月11日の東日本大震災後、鹿児島県の社員や主婦らが集まってできた非営利の小さな団体です。

「鹿児島だからできること」を合言葉に日々奮闘中!今年も3月22日より福島から子どもたちをお招きしての保養プロジェクト2回目スタートします。

のぐち英一郎が関わるイベント

2014年6月末

のぐち英一郎と語る会

環境、エネルギー、弱者支援、行政エックなど、議会での生の情報を、皆さまと共有させていただきます!と思っております。6月の市議会終了後、同6月末頃に予定しています。HP、FB、ツイッターなどで告知させていただきますので、どうぞお気軽にご参加下さい。

「甲突川ウォッチング」

甲突川源流域の里山を歩き、鹿児島に流れる自然を感じてみませんか。毎月第二日曜日に行われています(例外あり)。また下見仲間も随時募集!お問い合わせは

090・8229・6710

(ウシロノさんまで)

鹿児島市議会議員 のぐち英一郎実績年表

2013年

● ママトコかごしまで、福島から親子三組の保護を受け入れ。この経験を共有するため、鹿児島市で報告会を開催。また、福島から学ぶ環境・防災の観点を、議会にて政策として提言。

● 12月本会議、市の外郭団体における採用で無公募と縁故採用が非常に多いことを指摘。

● よろず相談からの内部告発(公益通報)が発端となった。(その後、採用は全面公募へ向ける、と市長が記者会見で発言)

2012年

● 鹿児島市議4期目の議席をいただく(4月)

● 南大隅町の『放射性物質等受入拒否及び原子力関連施設の立地拒否に関する条例』制定のために奔走(同12月に可決)

2011年

● ボランティアの有志により「ママと子どもを放射能から守る会かごしま」を立ち上げ、2012年より代表を務める

● 瓦礫受け入れ拒否を鹿児島市環境衛生課に申し入れ。森市長にも直訴。世論の動きもあり、鹿児島市への瓦礫受け入れは無しに

2010年

● 初めての決算特別委員会所属、ここでの提言から「家畜飼料の自給試験」がスタート

● 里親制度普及の研修受講。以後、議会での政策提言を重ね、鹿児島市での推進に取り組み

こんにちは。のぐち英一郎です。春明えて、今年もまた、畑に大根とジャガイモを植えました。「食べ物、エネルギー、思いやりの自給」は、これからの社会に大事なことで私は考えています。飢えや貧困、弱者に厳しい社会を解決する一端は、まずは自分の暮らしから。その暮らしを営む中でゆつくりと、今の社会に何が必要か?という哲学は育まれます。そして育まれた哲学を収穫し、政策として政治へとつなげることができれば、年を重ね、だんだんと気付くことができました。

みなさまのおかげさまで、厳しいことも多い無所属の一人会派として、ただいま4期目の14年目。沢山のお悩みのご相談(延べ600件以上)と、政策提言を頂きながら、ひとつずつ、経験と知恵と対話を積み重ねてきました。

これからの数十年。日本の人口減少は避けられません。だからこそ、40年の時間を使いながら、公共施設を半分にする自治体も現れはじめました。若者の県外流出が全国で一番多いこの鹿児島で、将来に残る借金を見据えながら、畑に種を蒔くように、野口は無理と無駄のない大地に根を張った市政をこれからも育てていきます。今後とも花が咲き、果が実るような温かなお力添えのほど、どうぞよろしくお願致します。



(2014年)

鹿児島市議会議員
無所属・市民ネット
のぐち英一郎
市政報告ニュース
2014年号



のぐち英一郎ニュース

ほぼ年刊!

このニュースに関するすべてのお問い合わせはこちらまで

のぐち英一郎 市民ネット

〒892-0811 鹿児島市玉里団地 3-12-7

TEL 080-4314-1121

E-mail eiichiro@entaku.info

HP <http://entaku.info/>

Twitter @entaku40

fb 「ほぼ日刊!鹿児島市議 のぐち英一郎」



「ダウンロード&プリントアウト いつでもどこでも表に貼れる! 斬新のぐちポスター!」

<http://entaku.info> にて、ダウンロードできる A4 野口ポスターを掲載中。プリントアウトして表に張っていただくと、とても野口のチカラとなります!

鹿児島市で40年続く縁故採用、改善へ

▼鹿児島市では長年、縁故採用や、口利き人事の噂があったのですが、確証がありませんでした。ところがつい最近になって、関係者の方から内部告発（公益通報）をいただく事があり、それがきっかけとなり、昨年の12月議会で持ち時間の30分、そのほとんどを使って厳しく追及し、改善の約束を森市長よりいただきました。鹿児島市では3年間でコネ人事、天下りなど無公募人事に13億円という大きなお金が使われていたのです。

▼そもそも、まったく議会で扱われない話でした。野口はこれまでも「口利き」や「縁故採用」のような語句で、調べてみたり議会で質問をしていましたが、市役所からは「それはない」の一点張りだったんですね。ところが今回、その内部告発の方とのやりとりにより、行政が使う語句は「公募という言葉だけだったので、「公募ではない採用の仕方」と聞かないと、お答えいただけなかったのです。なんとも不思議なことですが、行政が使う語句で質問しないと、行政からは適切な返事をいただけないのです。

▼特に「かごしま教育文化振興財団」と「まちづくり土地区画整理協会」という団体に、無公

募での採用数がきわめて多い、とわかってきました。なかでも「かごしま教育文化振興財団」は、職員62名のうち、無公募が47名。その無公募のうち、34名が嘱託員でした。しかし、嘱託員も2、3年経つと、正規職員に昇格される方もいらつしやる。決算資料を見ると、正規職員幹部の方は1000万円を越えるような退職金をもらっているんです。つまり、最初はコネ採用の嘱託であって



も、そのままスルツとエレベーターで正規職員に上がれば、いずれば退職金までもらえる、ということなんです。

▼今回の12月議会では、市役所から、無公募での採用職員がどこに何名います、と具体的な返答をいただきました。しかし、彼らは、彼らの作った規定に基づいてきちんとやっています。

る、と言っています。自分で作った決まりをいくらきちんとやっても、だから正しいとは言えませんよね。ところが「教育文化振興財団」の規定は、昭和57年以降、変わっていませんし、「土地区画整理協会」に至っては、昭和46年以降変わっていないのです。つまり、40年以上鹿児島市では無公募採用をやっていたことになりま

▼この無公募人事における支出の総額は、直近3年で約13億円という途方もないものでした。この就職難の時代に、この大きな街で、この大きな額の採用は、異常なことだと野口は考えます。縁故だからダメ

なだけではなく、就職を勧めたいほどの豊かな才能をお持ちの方がいらつしやるならば、よりよい人材を見出すために、なおのこと公募と競争試験で公平に雇っていた方がいい。

▼個人質問では、石踊（いしおどり）教育委員長から「改善します」とはっきりお答えをいただきました。また、質問の最後

に、森博幸市長が「今後も競争と選考は残しますが、できるだけ公平な雇用機会の確保、機会均等に務めたい」とお答えになりました。普段は明言を避ける森市長から、「できるだけ公募にしていきたい」とお答えをいただいたので、今回のことはある程度、方針が行き渡ると思います。

▼彼らの規定の中には、採用は「競争試験」か「選考」に限る、というものがありません。しかし「選考」という言葉には、不透明な意図が働く余地がありますよね。なのでまず規定から「選考」の二文字を外すことが今回の解決策のひとつだと思います。そして採用を、公募・競争試験に一本化し、それを早く実現できれば、不透明な採用はぐつと減るのではないのでしょうか。

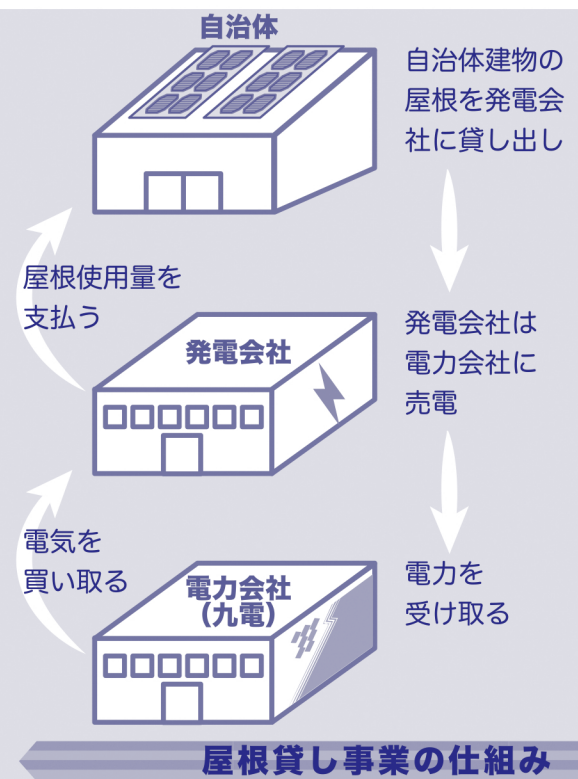
▼今回の発端となった告発者の方から「話が話だけに、話す相手を考えないと、不正を質す（ただし）ではなくて、隠蔽の方向に持っていかれかねない。だけれど、あなたの議会質問を見ると、あなたなら大丈夫、と思った」とおっしゃっていました。だからなんです。

議員生活14年。コツコツと積み上げて来た財産は市井の方からの信頼です。今後ともぐち英一郎をよろしくお願いします。

ソーラー事業のための屋根貸し事業2年目

▼昨年、薩摩川内市が太陽光発電のために「公共施設の屋根を貸します」ということを明言しました。太陽光発電の固定価格買い取り制度がはじまってから、ソーラーバブルが来たと言われています。そんな中、鹿児島市でも屋根貸し事業が始まりました。

▼この事業に率先して取り組む薩摩川内市は、ご存知のように原発のある自治体なのですが、



屋根貸し事業の仕組み

子どもの貧困対策の推進に関する法律

お金の側面 … 子供の貧困率 15.7%、ひとり親世帯の子供の貧困率 50.8%を3年で1割以上減らしていく、など。
学ぶ側面 … 進学率の向上や、貧困状況にある家庭へのサポートシステムの構築など。



学習支援を取り巻く状況の進展

▼現状での学校教育は残念ながら、お金がある家の子は塾に行っていて、学校側も塾が前提という場合があると聞くことがあります。

しかしそれは、義務教育のやるべきことを放棄しているという野口は思います。学校教育の現場が状況を改善できないのであれば、塾並みの公教育を、それができなければ、塾に行けずほったらかしにされた子供たちにはケアと居場所、それから教わったことが定着し、応用が出来るようになるまでの最低限の手伝いをする必要があると考えています。

▼その考えを後押しするよう、2013年・6月に、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」というものが出来ました。これは、子供の将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備する、という素晴らしい法律です。

▼3月4日の本会議でも「26年度に生活困窮者自立支援モデル事業に取り組み中で学習支援も検討したい」という答弁が示されました。中身の充実と全市で小規模分散の開催に今後とも引き続き働きかけていくつもりです。

やさしくてあたたかな政治をはじめよう

野口の想い

のぐち英一郎

2014年度がはじまります。今年には鹿児島市がはじまり125周年。さらに吉田、郡山、松元、喜入、桜島との合併からも十周年を迎えます。

その節目の年に、私たちは人口減少と超高齢化社会のまちづくりにおける「政治とお金の選び方」をどのように判断していけば良いのでしょうか。カギは「暮らしの質を上げながら、うまく街の規模を縮めていくこと」と「行政の望む民間力の活用ではなく、民間が望む行政のあり方に向けた改革ではないかと私は考えて、政策提言をしています。限りある税金を後先考えて使いながら、快適な福祉社会を実現しましょう。

さて、鹿児島市では、ここ数年のうちに新しい公共施設がいくつも出来上がります。同時に老朽化した施設やインフラ・設備等の更新・取り替えにもお金がたくさんかかります。

最近、森市長は約40億円の市電観光路線延伸を進めています。生活路線でもない観光路線に、今、40億円を費やすべきなのでしょうか？ 慎重な判断が求められているのは、市長を選ぶ私たちなのです。また伊藤県知事の独断専行は留まるところを知りません。

「ドルフィンポート跡地へ2020年の国体を見据えたスーパーアリーナ等整備構想」は、上海航路維持のための税金研修もあいまって、リコール運動にまで広がりました。そのスーパーアリーナ等の整備には300億円が予算として見込まれています。

そして、サマージャンボ宝くじの収益を目当てにした、肥薩おれんじ鉄道への「議決の必要が無い」10年間10億円というお金の要請。さらには、「常盤の斜面緑地保全都市計画」を、積年の打ち合わせを反故にして、開発業者と県議の頼みでいきなり白紙に戻してしまふ、という過去43年間で初めての横暴など、これまでは考えられなかった出来事が頻発しています。

そして、川内原発の再稼働には積極的なのが伊藤県知事です。住民の命と安全を守るうとしない県知事と、哀しくもその言動に振り回される鹿児島市政。

東日本大震災の被災者の方々はおっしゃいました。「原発さえ無ければ」。同じことが、この鹿児島で起こらないとは誰にも言い切れないのです。税金を大切に使う政治。生活環境を回復不可能なまでに壊さない政治。

やさしくてあたたかな政治を、今、一緒に始めましょう。

